

◆ 第 4 学 年 ◆

参加人員	平均点
3,340人	65.02点

得点分布表

得点分布	0～ 9	10～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80～ 89	90～ 99	100 点	標準偏差	平均点 (点)
百分率 (%)	1.0	2.5	4.9	5.4	9.8	12.0	12.7	16.2	16.7	13.0	5.8	23.46	65.02

問題別正答率

問題番号			観点	正答率	問題番号			観点	正答率
[1]	[あ]	①	知識・技能	51.8	[5]	[あ]	⑬	知識・技能	88.0
	[い]	②	知識・技能	61.6		[い]	⑭	知識・技能	75.8
	[う]	③	知識・技能	74.6		[う]	⑮	知識・技能	81.0
[2]	[あ]	④	知識・技能	80.2		[え]	⑯	知識・技能	32.7
		⑤	知識・技能	75.3		[お]	⑰	思考・判断・表現	65.8
	[い]	⑥	知識・技能	86.1	[6]	⑱	思考・判断・表現	43.7	
		⑦	知識・技能	84.8					
[3]		⑧	思考・判断・表現	57.9					
[4]	[あ]	⑨	知識・技能	70.7					
	[い]	⑩	知識・技能	76.5					
	[う]	⑪	知識・技能	38.5					
	[え]	⑫	知識・技能	35.7					

問 題

令和3（2021）年度
奈良県社会科診断テスト問題

第4学年 組 番	
名前	点

- 1** 地図帳を見て答えましょう。
 (あ) 福島県福島市はどこにあるでしょうか。例のような書き方で書きましょう。
 (例) 生駒市・・・(46ページ キ 4)

答え 正答(51.8)
 ページ

カタカナ誤記が誤答(18.1) 完答(知識・技能) ①

- (い) 生駒市から見て、和歌山市はどの位置にありますか。地図帳から和歌山市をさがし、八方位で答えましょう。

答え 南西

誤答例 その他(11.7) (知識・技能) ②

- (う) 生駒市役所のまわりには何が広がっていますか。地図帳の(46ページ キ 4)を見て、次の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

① 果樹園 ② 工場 ③ 市街地

答え ③

誤答例 ①(10.3) (知識・技能) ③

- 2** 奈良県について、次の問いに答えましょう。
 下のア・イの文章は、それぞれの資料を見て書かれた文章ですか。次の①～⑤の中から正しいものを二つずつ選んで、その番号を書きましょう。

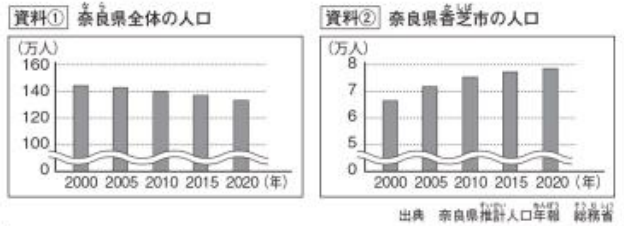
① 奈良県の地形のようす ② 奈良県の土地利用のようす ③ 奈良県の交通のようす

④ 奈良県のおもな産業のようす ⑤ 奈良県の市町村の人口

- ア 奈良県の南部には森林が広がり、木細工の生産がさかんである。
- 答え ② ④
- 誤答例 ①(18.3) (知識・技能) ①⑤**

- イ 奈良県の北西部には鉄道や道路が集まり、南部にくらべて多くの人が住んでいる。
- 答え ③ ⑤
- 誤答例 無記入(6.6) (知識・技能) ②⑦**

- 3** 次の資料①と資料②の両方を使って、あなたが「なぜかな?」と思うことを書きましょう。



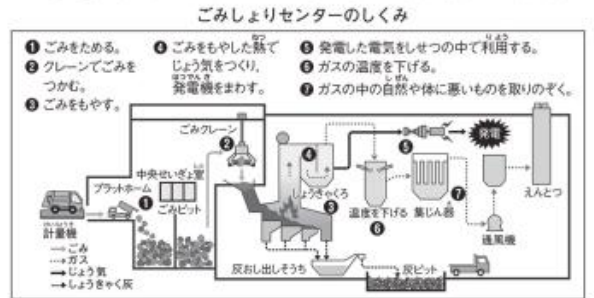
なぜ

のに、

正答(57.9)

誤答(42.1)/うち無記入(15.9) (思考・判断・表現) ①

- 4** ごみのしよりのしくみについて、次の問いに答えましょう。
 (あ) 次の資料を見て、もやせるごみのしよりのしくみについて、下の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。



- ① もやせるごみは、プラットフォームでもやせられ、発電に使われる。
 ② もやせるごみは、しょうきやくろでもやせられ、灰になる。
 ③ もやしたごみは、ごみクレーンで灰ビットに運ばれる。
- 答え ②
- 誤答例 ③(16.2) (知識・技能) ②**

- (い) ごみしよりセンターで働く人の話を聞いて、わかったことを下の①～③の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

ごみしよりセンターで働く人

「ごみはバッカー車で集められ、このセンターに運ばれてきます。ごみをもやししょうきやくろや、けむりをきれいにする機械などは、中央せいご室でかんしてあります。もやすことにより灰になるので重がへり、くさりやすいものも衛生的にしよりてきます。みなさんも、ごみを種類ごとに区別してくださいね。」

- ① 中央せいご室では、しょうきやくろ等の機械などをかんしている。
 ② 中央せいご室では、ごみの種類を調べ、種類によって分けている。
 ③ 中央せいご室では、ごみの重さを計り、しよりしている。
- 答え ①
- 誤答例 ②(15.6) (知識・技能) ②**

- (う) ごみを種類ごとに区別することを何といますか。
- 答え 分別
- 誤答例 その他(34.9) (知識・技能) ①**

- (え) リデュース(ごみをへらすこと)など、資源をたいせつにするための重要な行動を英語にして、それぞれの最初の文字をとった考えを何といますか。
- 答え 3R
- 誤答例 無記入(26.7) (知識・技能) ②**

問 題

- 5 自然災害から人々を守る活動について、次の問いに答えましょう。
 (あ) 奈良県の自然災害について、次の年表を見て、下の①～③の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。

奈良県がひ害を受けたおもな自然災害		
発生した年	自然災害名	ひ害のあった主な地いき
1952年	吉野地震	奈良市・吉野町等奈良県内広く
1982年	大和川大水害	王寺町はじめ大和川やその支流の近く
1998年	台風第7号	宇陀市・葛城市
2011年	紀伊半島大水害	五條市・天川村等奈良県南部

- ① 自然災害は奈良県内のさまざまな地いきで起きている。
 ② 奈良県内では火山による災害がよく起きている。
 ③ 奈良県内では2000年以降、自然災害は起きていない。

答え **88.0**

誤答例 ③(5.4) (知識・技能) ①

- (い) 奈良県で自然災害が起きたときの対応について、次の図を見て、下の①～③の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。



- ① 災害時に各市町村は、自衛隊に直せつ連絡を取る。
 ② 災害時に県庁は、各方面への連絡の中心となる。
 ③ 災害時は、県庁からの指示がないと消防は出動できない。

答え **75.8**

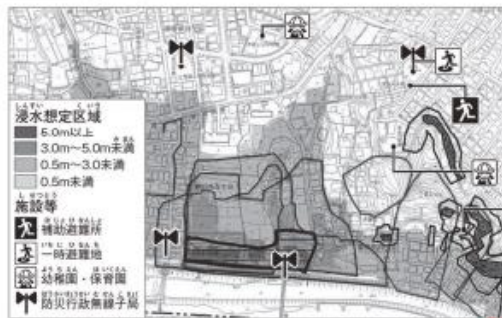
誤答例 ③(13.2) (知識・技能) ①

- (う) 自然災害にそなえて地いきで行われている活動について、次の()の中から正しい言葉一つを選んで、○をつけましょう。

地いきの自治会では、ふだんから各市町村の職員と、おたがいの(協力・競争・警報)体制について確認している。

誤答例 警報 (13.9) (知識・技能) ①

- (え) 下の資料のように、自然災害の発生により、予想されるひ害を地図上にしめしたものを何といいますか。



答え **ハザードマップ** **32.7**

誤答(33.7) (知識・技能) ①

- (お) 自然災害のひ害を小さくするために、自分たちにできることについて、家族で話し合いました。すると、家族から下のア～ウの質問がありました。その中から一つ選び、あなたならどのように答えるか考え、書きましょう。



ア	災害が起きたとき、家族が一緒にいない場合に備えて今からできることは何だろう。
イ	災害に備えて、家の中で、できることは何だろう。
ウ	災害が起きたら、自分にできることは何だろう。

選んだ質問

答え

正答(65.8)

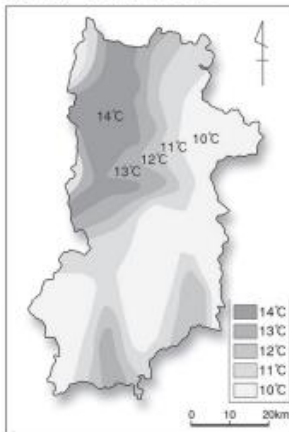
誤答(34.2) / うち無記入(9.8) (思考・判断・表現) ①

- 6 資料①を見ると、いちごが多く作られている場所は、県の北西部(奈良盆地)に集まっていることがわかります。これらの地いきは、どのようなところだといえますか。資料②と資料③の両方を使って、説明しましょう。

資料① いちご作りがおこなわれている市町村



資料② 奈良県の平均気温



資料③ 奈良県の交通の広がり



答え **正答(43.7)**

(思考・判断・表現) ①

準正答(18.4) / 誤答(37.9) / うち無記入(18.6)

1の考察

〔あ〕は、福島県福島市の位置を問う「知識・技能」の問題で、正答率51.8%であった。正答例は「68（ページ）・ウ・10」のように、ページ数・カタカナ・数字の3点を記述しなければならない。しかし、カタカナの誤答が18.1%，全て誤答が12.2%であった。

〔い〕は生駒市から見て和歌山市はどの位置にあるか方角で問う「知識・技能」の問題で正答率は61.6%であった。主な誤答として、南東（4.1%），北西（2.4%）を想定していたが、実際は、その他が11.7%，無記入が10.5%であった。

〔う〕は、生駒市役所のまわりに広がっているものを問う「知識・技能」の問題で、正答率74.6%であった。

3問とも地図帳の活用という、基礎的な「知識・技能」を問う問題である。アンケートの意見に「普段から地図帳を活用したい」という記述があったが、まさにその通りであるといえる。そこで学級担任制の小学校ならでの指導法として、以下を提案したい。

- ①：朝の会や、社会科の導入等、隙間時間を使って、ニュース等で話題になっている土地の位置を地図帳で確認し、その場所を「68（ページ）・ウ・10」のように共有する。
- ②：理科等で方角が出てきた際には、八方位を確認し「奈良県から見て〇〇は△△（八方位）」と共有する。
- ③：①と②を組み合わせる。

2の考察

大問2は、奈良県に関する5つの資料から2つの資料を選択する「知識・技能」の問題である。小問アの正答率は、②が74.6%，④が80.2%であった。小問イの正答率は③が86.1%，⑤が84.8%であった。おおむね資料を読み取り、選択することができていると考える。

3の考察

「奈良県全体の人口」の推移を表す資料と「香芝市の人口」の推移を表す資料をもとに、「なぜかな？」と思うことを記述する「思考・判断・表現」の問題で、正答率は61.2%であった。結果の詳細は以下ようになった。

大問3	解答の分類	割合(%)
正答	2つの資料を正しく読み取っているもの	61.2
誤答	1つの資料のみに着目して解答しているもの	1.3
	資料の読み取りが正しくできていないもの	7.4
	資料以外に考えがおよんでいるもの	0.9
	「なぜ」疑問になっていないもの	7.4
	論述が明確でないもの	3.6
	問題とかけはなれた解答	2.4
	無記入	15.8

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査をしたものです。)

主な誤答は、「資料の読み取りが正しくできていないもの」、「『なぜ』疑問になっていないもの」で、それぞれ7.4%であった。この結果から、まずは正しく資料を読み取る技能を養う必要があると考えられる。また、複数の資料を提示して「なぜ？」と児童自身が問題を見出す場面を学習過程に位置づけていく必要がある。

4の考察

〔あ〕はごみしよりセンターの仕組みについて資料を読み取る「知識・技能」の問題で、正答率は70.7%であった。誤答は③が16.2%であった。資料を細部まで読み取るよう、指導をしていく必要がある。

〔い〕はごみしよりセンターで働く人の話からごみ処理の努力や工夫を読み取る「知識・技能」の問題で正答率は76.5%であった。主な誤答は②の15.6%であった。これは資料を正しく読み取ることができていないためであると考えられる。

〔う〕と〔え〕はごみ処理に関わる用語を記述する「知識・技能」の問題で、正答率は〔う〕が38.2%、〔え〕が35.7%であった。学習指導要領「内容の取扱い(1)オ」に「ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちにできることを選択・判断したりできるよう配慮すること」とある。正答である「分別」や「3R」といった用語は、持続可能な社会に向けて、ごみの量を減らすために私たちができる行動の一つであり、副読本でも選択・判断の場面を考慮して、この用語が掲載されている。授業では持続可能な社会づくりに向けて、自分たちが出すごみの量と向き合い、ごみを少なくするために選択・判断をする機会をもたせ、学習を充実させていく必要がある。さらに選択・判断したことについて、実際に行動する経験をもたせるような展開の工夫をすることで、生きた知識となると考えられる。

5の考察

〔あ〕は、奈良県が被害を受けたおもな自然災害の年表から奈良県内の自然災害の特徴を問う「知識・技能」の問題で、正答率は88.0%であった。

〔い〕は、奈良県内で自然災害が起きたときの各機関の対応を表した図を読み取る「知識・技能」の問題で、正答率は75.8%であった。誤答を選んだ児童は、各機関から出ている矢印を読み間違えたと考えられ、普段から図の読み取りについて指導する必要があると考えられる。

〔う〕は、自然災害に備えて地域で行われている活動について問う「知識・技能」の問題で、正答率は81.0%であった。

〔え〕は、「ハザードマップ」等の用語を記述する「知識・技能」の問題である。正答率は32.7%であった。誤答は、語句を正しく答えられていない誤答が33.7%、無記入が24.7%であった。知識として身に付けてほしい語句であるが、十分に身につけていないと考えられ、今後も授業で実際のハザードマップを活用し、指導者が意識して定着させていく必要があると考えられる。

〔お〕は自然災害の被害を小さくするために自分たちができることを記述する「思考・判断・表現」の問題で、正答率は65.8%、誤答が34.2%で、うち無記入が11.2%であった。結果の詳細は以下のようになった。

大問5	解答の分類	割合 (%)	
正答	被害が小さくなると考えられるもの	65.8	
誤答	被害が小さくなると考えられないもの	3.7	34.2
	論述が明確でないもの	12.1	
	問題とかけはなれた回答	7.2	
	無記入	11.2	

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査をしたものです。)

主な誤答は「論述が明確でないもの」が多く、12.1%であった。無記入の児童も含め、具体的な「自助」の内容について考え、記述することができなかつたと考えられる。今後は、防災に関する課題についてねり合う活動や、自分たちにできる行動について選択・判断する活動を取り入れるなど、課題を自分事として捉える学習を展開していく必要があると考える。

6の考察

大問6は、平成29年版学習指導要領の意向を踏まえ、現実社会との接続を意識した。資料①からいちご作りが盛んな場所をつかみ、そのような場所の特徴を、資料②(奈良県の平均気温)と資料③(奈良県の交通の広がり)の両方を使って説明を求める「思考・判断・表現」の問題である。正答率は43.7%で、資料②か③の片方しか使っていない準正答が18.4%、誤答が18.8%、無記入が18.6%であった。

アンケートを通じていただいた「2つの資料からわかることを記述させることが難しかった」という意見に代表されるように、日常的に複数の資料を使って意見を作らせる学習はあまりなされていないのではないだろうか。確かに4年生段階の児童にとっては多少困難であるかもしれないが、社会科では複数の資料から意見を作ることが求められる。

4年生12月1日時点で、複数の資料を使って、特に今回の問題のように、因果関係に関する意見を作らせやすいのは、4年生の単元「奈良県のようす」と、3年生の単元「市の移り変わり」であると考えられる。そこで、上記の2つの単元における指導法及び単元の展開として、以下を提案したい。

- ①：4年生の単元「奈良県のようす」において、「『地形』と『人口』の両方の資料からわかることは?」「『交通』と『人口』の資料を見て、この2つは関係あるのか?」「3つ以上の資料を使って、奈良県の様子を説明できないか?」と問うなど、複数の資料をもとに意見を出させたい。
- ②：3年生の単元「市の移り変わり」において、「人口がどうなったから、学校の数はどうなったのか」「駅が新たに作られたことを、人口や土地利用と関係づけて、説明できないか」と問うなど、複数の資料をもとに意見を出させたい。